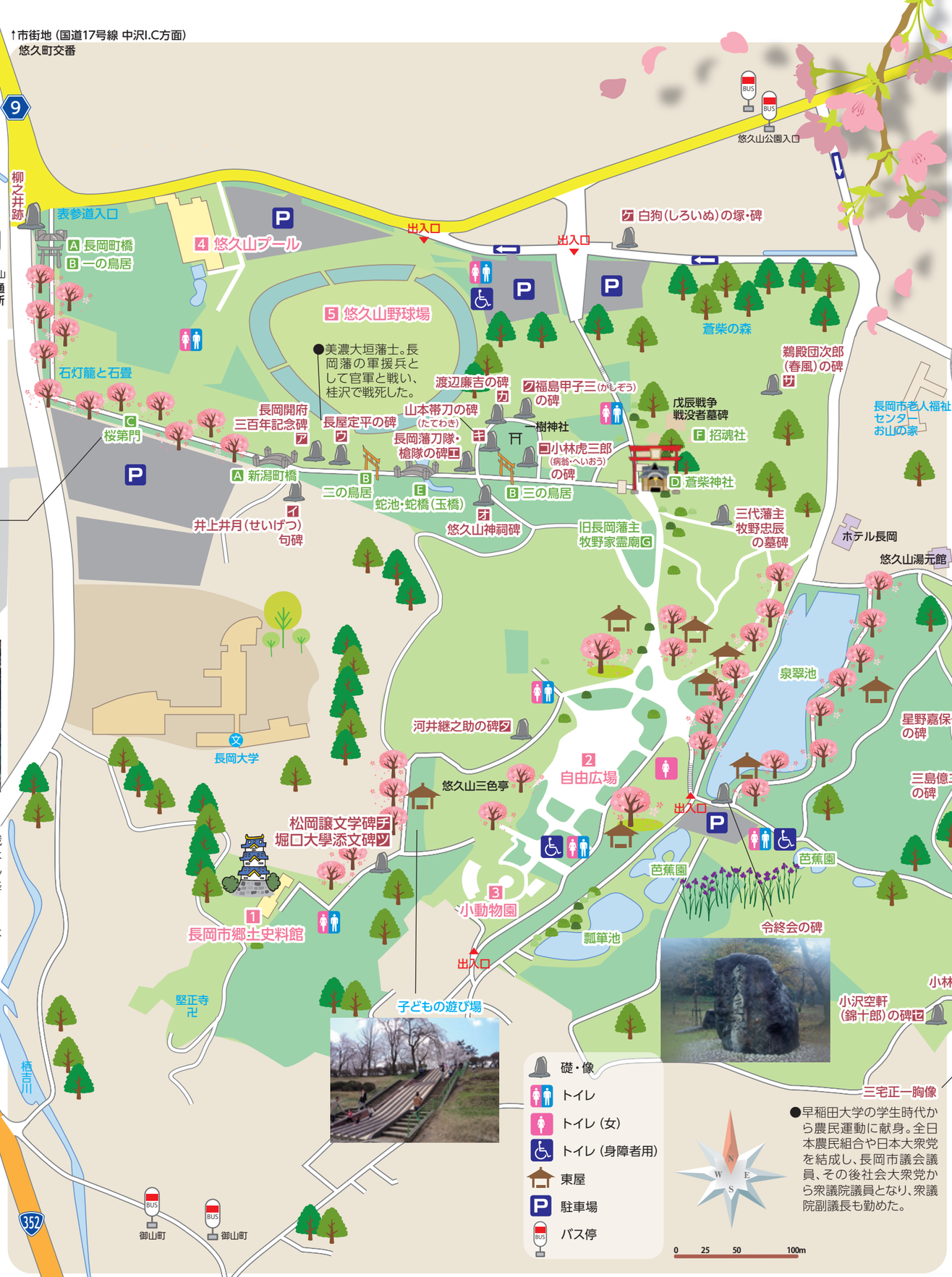
MAP 悠久山 散策



ア 長岡開府三百年記念碑
●大正6（1917）年に、古志郡（現在の長岡市南部や栃尾地域など）の各町村が寄進。

桜第門

イ 井上井月（せいげつ）句碑
●「何処やらに鶴（たづ）の声きく霞かな」信州伊那谷を漂泊し、乞食宗匠として慕われた俳人・井月。その出身は長岡藩士ともいわれている。

エ 長岡藩刀隊・槍隊の碑
●戊辰戦争で刀隊・槍隊として戦い戦死した人たちの碑。刀隊の碑には、長岡藩大参事・小林虎三郎が平和の大切さを訴えた撰文を寄せている。

キ 山本帯刀（たてわき）の碑
●八歳のとき、長岡藩の家老職を勤める山本家の養子となる。戊辰戦争では大隊長として出陣。西軍の降伏勧告を拒否し、会津飯寺で死す。篆額（てんがく）は榎本武揚の書。

オ 悠久山神祠碑
●長岡藩九代藩主・牧野忠精が、天明元年ここに蒼柴神社を建立し、この地を悠久山と名付けた。碑には、蒼柴神社の祭神・忠辰の事績と追念が記されている。
忠辰：長岡藩三代藩主。没後「蒼柴霊神」号が贈られ、後に「大明神」を追号された。

クフ 福島甲子三（かしぞう）の碑
●令終会の幹事として、悠久山公園の整備や公園道路の新設に尽力した。

カ 渡辺廉吉の碑
●苦学の末に海外留学を果たし、法律と政治学を学び、帰国後に明治憲法の制定にかかわるなどした法制学者。郷土長岡の人材育成にも尽力した。

セ 小沢空軒（錦十郎）の碑
●教育に一生を捧げた人。大正11（1922）年、私立長岡高等実業女学校の校長となる。

コ 小林虎三郎（病翁・へいおう）の碑
●長岡藩文武総督大参事。戊辰戦争後の長岡の復興に尽力し、とりわけ教育の重要性を唱え、支藩・三根山藩から贈られた百俵の米を国漢学校の設立資金にあてた。晩年病弱のため、自ら名前を病翁と改めた。

ソ 小林銀汀句碑
●「山の名月に顔向けて居る」長岡の写真館主・小林銀汀は、旧制長岡中学のころ来岡した俳人・河東碧悟桐に師事。師亡き後は荻原井泉水の門下生となった。種田山頭火とも親交を持つ。

サ 鵜殿団次郎（春風）の碑
●幕末きっての洋数学者。長岡の下級武士の家に生まれ、のちに江戸に遊学。幕府蕃書調所教授などを勤める。38歳で夭逝。

シ 星野嘉保子の碑
●女子教育の必要性を説き、明治22（1889）年に独力で私立長岡女学校を創設。女子の地位向上に努めた。

タ 河井継之助の碑
●長岡藩軍事総督として北越戊辰戦争を指揮。慶応4（1868）年、会津塩沢で没。篆額は陸軍中将黒田清隆。この石碑と山本帯刀の碑は大正7年2月、市内の中学生と青年の奉仕を得て、長岡城址にあったものをそりで運び、雪消えを待って現在の位置に建てたものである。

チ 松岡譲文学碑
●彼の代表作「法城を譲る人々」の文学碑。旧制長岡中学では堀口大學と同級生であり、夏目漱石の長女・筆子と結婚した。

ツ 堀口大學添文碑
●級友・松岡譲の死を悼む、大學の詩碑。彼の訳詩集「月下の一群」は、日本の近代詩に多大な影響を与えた。

ス 三島億二郎の碑
●戊辰戦争後の長岡のまちを復興させた恩人。国漢学校では中心的役割を担うとともに、新しい産業を興すことにも尽力した。また北海道開拓にも夢をかけた。